

生体情報で事故予測

三重大、あぐりん伊勢、中電 熱中症予防も

【三重・伊勢】JA伊勢の子会社、あぐりん伊勢は、中部電力と三重大が農作業事故防止に向けて取り組む、バイタルセンシングの実証試験に協力した。昨年度に引き続き、あぐりん伊勢の社員が測定装置を身に付けて農作業を行い、中部電力と三重大が脳波や心拍数などのデータを取得。データを解析し、作業負荷やストレスなどを予測して事故防止につなげる。

研究は2022年から進めるもの。専用の測定装置で、農作業中の姿勢や移動速度、目線、心拍、脳波などをリアルタイムで読み取る。読み取ったデータは、人工知能（AI）を活用し、作業中のス



農作業を行う社員のデータを測定する内藤助教④と学生

草刈りやトラクターの操縦をし、作業前後の心拍数や脳波、呼吸などの変化を調べた。作

業中もリアルタイムでデータを計測した。今回の調査では、脳波の測定装置を改良。傾斜地の走行や複雑なハンドル操作時の脳波を計測することで、心理的負荷を評価・分析する。試験を進める三重大学の内藤啓貴助教(37)は「システムを作って農作業中の熱中症や事故をなくしたい。農作業が心身に与えるポジティブなデータも収集・発信することで、食や農業に貢献していきたい」と話す。